

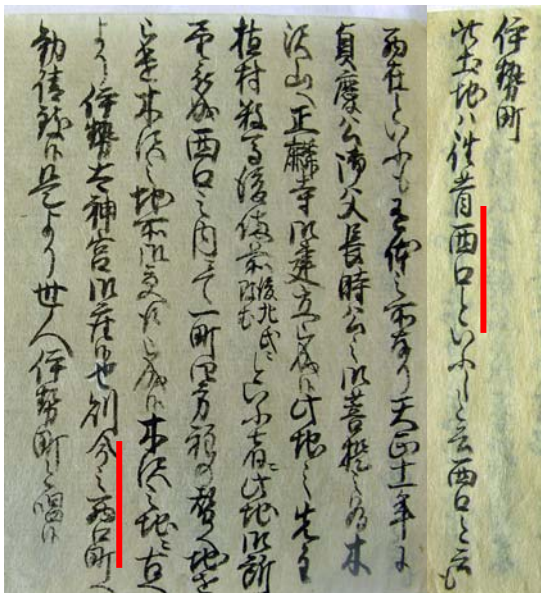
### 8-2 松本城クイズ30 川南の町人地の変遷・親町枝町小路 (解答・解説)

松本城管理事務所研究室

1. 享保10年に編纂が完了した「信府統記」によれば「天正13年(1585)より今の宿城の地割をして、15年までに市辻・泥町あたりの町屋を残らず移し、東町・中町を割り・・・」とある。市辻・泥町あたりの町屋はどこに移住したのか、次の中から一つ選びなさい。・・・②

享保10年に成立した「信府統記」によれば、「天正13年より今の宿城の地割をして、15年までに市辻・泥町あたりの町屋残らず**本町に移し**、東町・中町を割り、麻葉町を安原町と改め、西口を伊勢町と名づけて通り筋を定め家を建てつづけ・・・」と記している。

2. 「松本記」(川辺家文書)によれば、「・・・木沢之地二古へより伊勢太神官御座候也 則今之□□□へ勧請致候 是より世人伊勢町と唱候」とある。伊勢町と呼ぶ前は、この町を何と言っていたか、次の中から一つ選びなさい。・・・③



「松本記」(川辺家文書)

赤線の部分・・・西口、西口町

享保10年に成立した「信府統記」によれば、「天正13年より今の宿城の地割をして、15年までに市辻・泥町あたりの町屋残らず本町に移し、東町・中町を割り、麻葉町を安原町と改め、**西口を伊勢町と名づけて**通り筋を定め家を建てつづけ・・・」と記している。



3. 本町の枝町馬喰町(博労町)は、「太守累年紀」(川辺家文書)によると「・・・此代伊勢町飯田町小池町宮村町・・・二家並建並(家ならびたてならぶ)然共明地(あきち)数多有(あり)馬喰町出来ル・・・」とある。さて此代とは、次の中の誰にあたるか一つ選びなさい。・・・④

「・・・小笠原兵部大輔源朝臣秀政 此代伊勢町飯田町小池町宮村町和泉町安原町横田町山家小路町に家並建並 然共明地数多有 馬喰町出来ル・・・」。小笠原秀政である。

4. 親町である中町は、本町と東町の間にあることから名づけられたという。城下町の中心の位置を占めている一つである。天正13年(1585)～15年頃には町屋を移し、東町・中町の地割りがなされ、そして小笠原秀政時代に各町に家が建ち並んできたとされている。次の中で中町に付随する町でないものを一つ選びなさい。・・・①

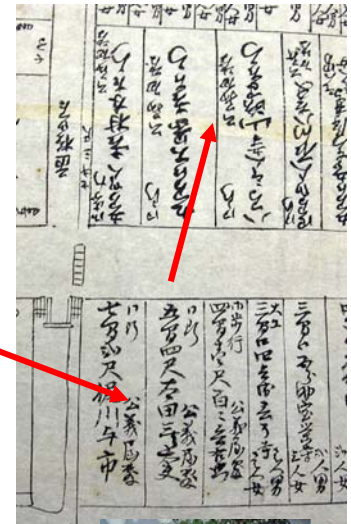
中町の枝町は、飯田町・小池町・宮村町の3町である。従って**和泉町は中町の枝町ではない**。

5. 「松本記」(川辺家文書)によると、「・・・秀政公飯田より御入部頃までは、まだ明地明屋数あり、これへ飯田より召し連れられてきた御侍衆奉公人衆を差置かれた。また御上様を慕ってきた諸職人やそのほか種々の人達をここに置かれた。よって世人□□□と唱えた」。□に入る町を次の中から一つ選びなさい。・・・④

「又御上様を慕ひ諸職人其外種々の人等付き参候者をも御差置被成候也 **よつて世人飯田町**と唱候

6. 右の絵図は元禄時代に作成された宮村町の一部である。石川康長の代に「・・宮村辺ニ歩行屋敷出来ル・・」とある。歩行屋敷北側に間口4間～9間で御歩行として、武家屋敷と町人地が混在している（赤の矢印部分）様子がうかがえる。町人地の中の武家屋敷を何と呼んでいたのか、次の中から一つ選びなさい。・・・・・・③

天正14,5年(1586~7)までに三の丸からは家々がのこらず引き払われた。この三の丸からの本町への移住だけでは、人数が少なく空き地や空家が多かった。そこで侍や奉公人をも住ませた。これを**公義(儀)屋敷**(赤矢印部分)という。



7. 寛永13年(1636)松本に銭座が置かれ、寛永通宝が鑄造(ちゆうぞう)された。町役人今井勘右衛門が申請し許可された。さて、この銭座はどこに置かれたのか、次の中から一つ選びなさい。・・・・④

寛永13年(1636)から17年まで寛永通宝が、松本城下**鍋屋(なべや)小路**(今のあがたの森通り)に銭座が置かれた。この時代全国8ヶ所に置かれた一つが松本である。城主は月見櫓と辰巳附櫓を増築した松平直政(寛永10年~15年在城)の代である。町役人今井勘右衛門が出願して、許可されて鑄造された。以前は今の市民芸術館北側に「松本銭鑄造記念碑」(写真)があったが、市民会館建替えによって、芸術館裏(南側)に移っている。

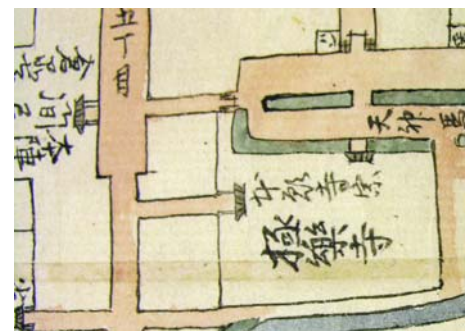


8. 川南の町人地で飯田町の中に唯一寺が存在する(下絵図の赤矢印のところ)。この寺は松本城主水野家由緒の寺である。歴代の城主や住職によって守られてきた。しかし、明治5年からの廃仏毀釈によって廃寺となる。近年整備をして説明碑を建立してその歴史を留めている。この寺の名は何というのか、次の中から一つ選びなさい。・・・・②

**乾瑞寺**は、慶安元年(1648)水野家二代忠職(ただもと)が、京都妙心寺塔中養賢院の住持になっていた弟の龍天和尚(祖活)をまねいて開基した寺である。跡に福寿院の墓がある。福寿院は前田利家の養女で、松本藩水野家初代藩主水野忠清(ただきよ)の正室になり、二代忠職と**乾瑞寺**の開祖祖活を産んだ母である。廃仏毀釈にあい、現在は墓地の一部は残っていて、整備されている。

9. 川辺家文書「太守累年紀」によれば、「・・〇〇〇ヨリ追手先(大手先)女統多川(女鳥羽)ヨリ南江極楽寺を移ス・・・」とある。水野忠職(ただもと)の代に春了寺を建てるために、明暦3年(1657)に現在地(本町5丁目)に移転した。極楽寺が最初にあった場所は、次のうちどれか一つ選びなさい。・・・・①

川辺家文書によれば、「・・・**栗林村**ヨリ追手先女統多川ヨリ南江極楽寺ヲ移ス・・・」とある。栗林村は、今の島立で、石川三長(康長)代のことである。水野忠職代に春了寺を建てるために、明暦3年(1657)に本町5丁目に移転した。



10. 本町2丁目に藩の御使者宿(おししゃやど: 公的宿泊施設)が、寛文7年(1667)に常設された。その後天明3年に移転した。今井家が幕末まで7代にわたって勤めた。本町2丁目からどこに移ったか一つ選びなさい。・・・・④

本町2丁目から**本町4丁目**に移転する。右の絵図を参照。

